

「Firefly」

訪問日時：8月19日

移動手段：貸切バス

訪問場所：Menerangi Minda Generasi (Enlightening Generations)

・Menerangi Minda Generasi



(ホテルの名所の入口)

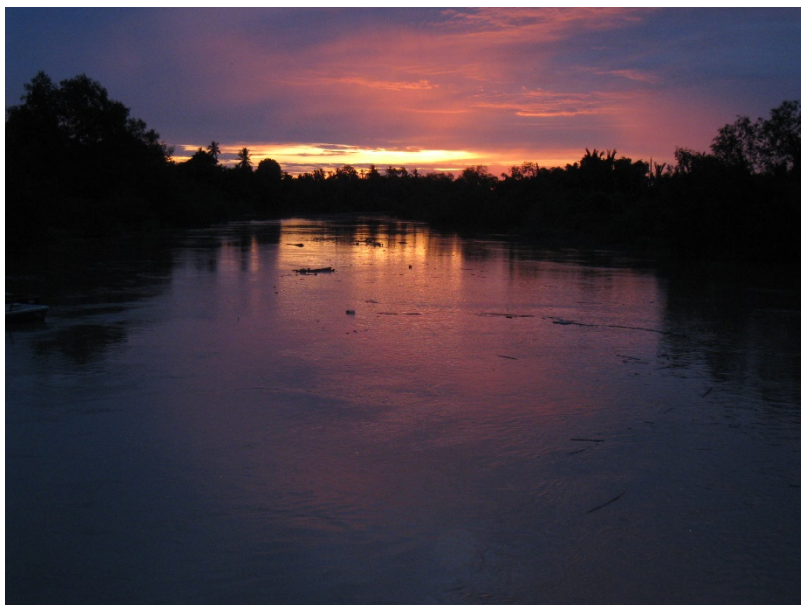
船に乗りながら蛍を観察することができるホテルの名所。到着時間は現地時間の20時ごろだったが、その時間でも周りは明るかった。暗くなるまでまだ時間があり、ホテルの見学もできないため、全員で待つ。すると著者たちの前に太陽が落ち切る前のきれいな夕焼けができたためツアーのガイドさんも含めて皆で夕焼けをバックに記念写真をパチリ(一人逆光で顔が見えませんが…)。8月19日最後の訪問地であったため皆に疲労の色が見える。その後は暗くなるまで待合所で並びながらおしゃべりタイム。著者たちの後ろに並んだ人たちは外国の人っぽい顔つきだなあと思うもここが外国で自分たちも外国人だと再認識。本当は写真でホテルの写真でも載せたいのだが、フラッシュをたくのいいはずがなく、フラッシュを焚かなくては写るはずもなくホテルの写真はない。



(夕日をバックにガイドの方と記念撮影)

待合所の扉が開き、さあホタル見学だと思ってもまだお預け。その奥でもう一度みんなで待つ。しかしその間に救命胴衣を身に着け、ついに4人ずつで船に乗り込みホタル見学へ出発する。乗船人数が筆者を含めて学生4人+舟をこぐガイドの計5人。上の写真のバックに移っている川をまず下流に下り、また戻ってくるというコースで15分くらいのホタル見学だったが多くのホタルを見ることができた。著者が日本で見たことのあるホタルは無数のホタルがばらばらのタイミングで光ったり消えたりをくりかえしていたが、マレーシアで見たホタルは一つの草にいるホタルが一斉に光り、一斉に消えるという日本とは異なる光りかたをしていた。このメカニズムやなぜ一斉に光るのかなどはまだ詳しく分かっていない。

見学が終わった後は順に船を降り、バスに戻る。来るときはなかった出店や土産物屋が船の乗降場からバスに戻るまでの間に出ていた。このあたりの産業にもなっているようだ。待っているときは感じなかったが、川の漂流物にいろいろなものがあった。大きい木や大量のごみ、どう見ても誰かの所有物であろう船が流れていくとこともあり、マレーシアが日本と異なることを痛感した。バスに戻る途中、筆者の舟は2番目に出たのだが戻ってくるのが最初になるという残念なことについて同じ船に乗った人と話していたが、ガイドの人とあまり話さなかったことが原因と木目込み、バスに乗り込んだ。このホタル見学が終わるとこの日の日程は終了。まだ始まって二日目(一日目は移動日だったため実際の行動日としては初日)、これからの日程が田茂氏身になるホタル見学だった。



(当日の夕日)

[タグ]

ホタル、舟、夕日、マレーシア、光